

3 一般県道瀬野呉線道路改良事業計画に係る試掘調査（要試掘地点No.1）

所在地：安芸郡熊野町上深原～下深原

調査目的：一般県道瀬野呉線道路改良事業に係る埋蔵文化財の有無及び範囲の確認

開発事業者：広島県西部建設事務所

調査年月日：平成27年10月26日～平成27年10月28日

調査対象面積：7,000㎡

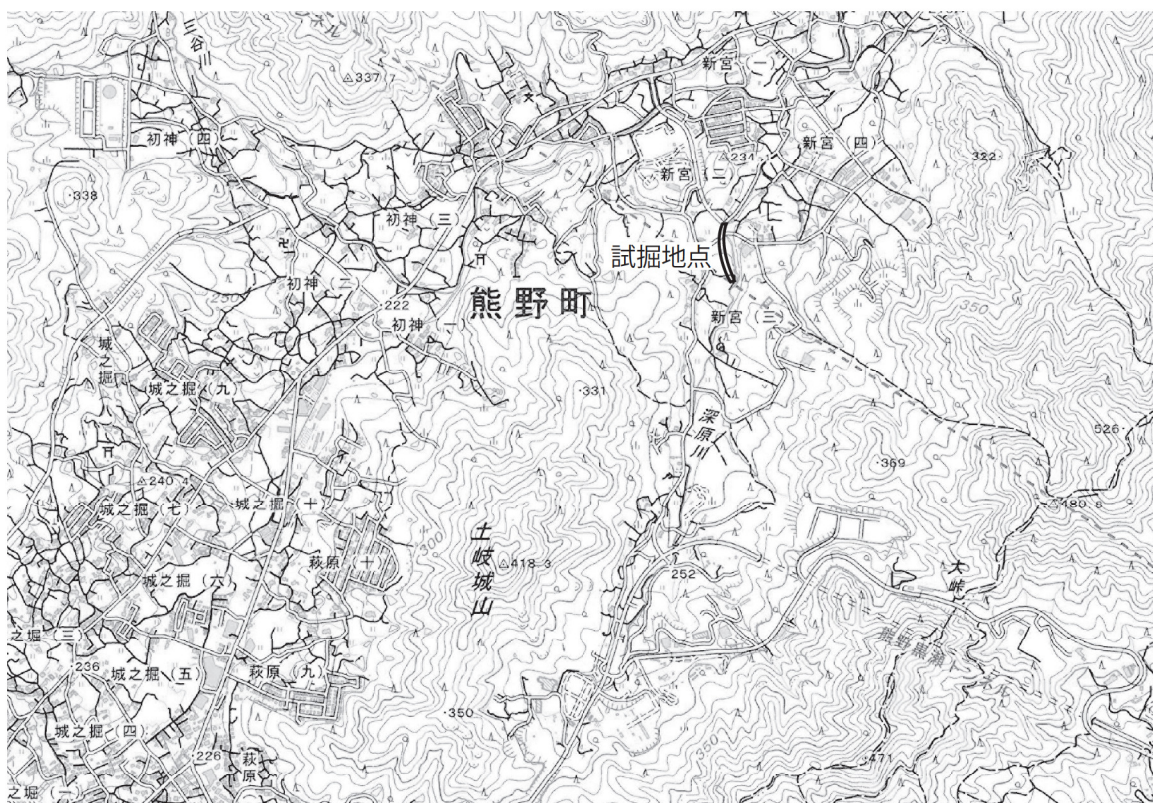
調査結果：埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。

調査概要：

今回調査を行った要試掘地点No.1は、要試掘地点No.2～No.4の北側に当たる。試掘地点は、北流する深原川西岸の浅い谷に開けた水田地帯に位置しており、対象地の標高は208m（北端）～213m（南端）である。深原川東岸の低丘陵緩斜面（標高210～215m）に存在する下深原遺跡（中世・包含地）に近接しており、埋蔵文化財包蔵地が存在する可能性が認められることから試掘調査の対象とした。

試掘坑は、稲刈りが終了した水田に9箇所（1T～9T）を設定し、発掘を行った。

基本層序は、0層＝耕作土、Ⅰ層＝整地層（盛土）、Ⅱa層＝自然堆積層（シルト層または土石混入層）、Ⅱb層＝自然堆積層（川砂層）である。



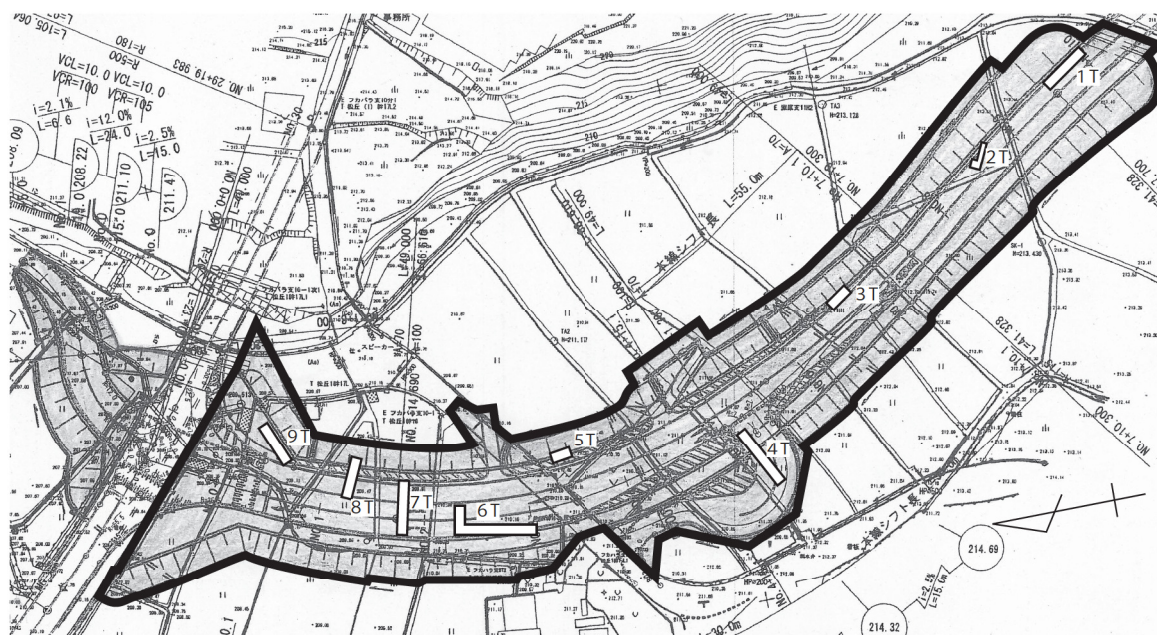
第10図 一般県道瀬野呉線道路改良事業に係る試掘調査地点位置図（1：25,000）
（国土交通省国土地理院発行 1：25,000 地形図「海田市」を使用）

町道南側で1 Tから5 Tを発掘した。1 T・2 Tは、共に類似した堆積状況であり、耕作土として整地された層（Ⅰ層）の下層に灰色シルト（Ⅱ a層）、その下層深度1.5m程度で、現在の深原川岸に堆積する砂層・河原石と同様の湿った川砂（Ⅱ b層）を確認した。

深原川東側の崖状に露出した花崗岩基盤層は、深原川によって分断されており、花崗岩基盤層は水田の下では確認できない。2 Tにおいては、砂層中の礫がトレンチ底面で0.5～1 m程度まで巨大化してきたため、過去の深原川の流路は、現在の流域より西側に広がっていた可能性が高い。

1 T・2 Tが過去において深原川の流路の中心付近と考えられ、深原川から40m程度離れた3 Tにおいても、Ⅰ層の下層は土石が多量に混入した赤土層（Ⅱ a層）となっており、上流域からの土石の流入域の様相が強い。谷筋から離れた西側の丘陵に近い部分に試掘坑（4 T）を設定したが、堆積状況は、1 Tとほぼ同様であり、2面の耕作面の下層にシルト層（Ⅱ a層）、その下層に川砂・河原石の自然堆積（Ⅱ b層）が認められた。5 Tは標高がやや下がった町道に近い地点に設定したが、現地表下0.7mでⅡ a層（土石混入層）となり、1.1m付近で湧水があった。

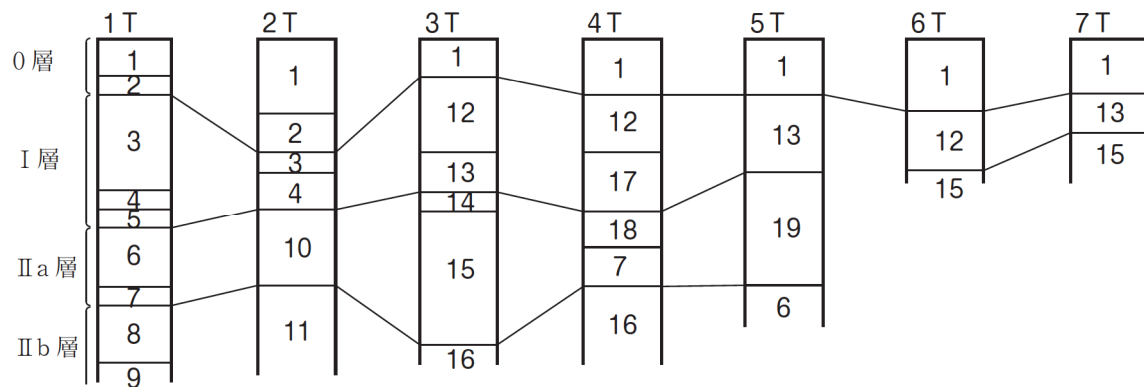
町道北側で6 Tから9 Tを発掘した。東側の丘陵緩斜面には中世の包含地とされる下深原遺跡が存在していることから、耕作土等にも遺物が混入していることを想定して調査を行った。6 Tでは耕作土直下で素焼き土器小片を含む近世以降の陶磁器片が出土した。試掘坑の範囲を拡張して精査したが、下層は近世以降の整地層（Ⅰ層）であり、遺構には伴わない。7 TにおいてもⅠ層の直上で陶磁器片等が数点出土したが、遺構は存在しない。8 T・9 Tにおいても、遺構・遺物は確認できなかった。



第11図 一般県道瀬野呉線道路改良事業試掘坑位置図（1：1,500）

表 7 一般県道瀬野呉線道路改良事業地試掘坑所見

トレンチ名	長さ×幅×最深部深 (m)	備 考
1 T	8.0 × 1.0 × 1.6	出土遺物なし
2 T	5.0 × 1.8 × 1.8	出土遺物なし
3 T	4.0 × 1.8 × 1.7	出土遺物なし
4 T	12.0 × 0.8 × 1.6	出土遺物なし
5 T	3.0 × 1.2 × 1.4	出土遺物なし 地表下 1.0 m で湧水
6 T	22.0 × 0.8 × 0.7 (一部範囲を拡張)	近世～近代の遺物少量出土
7 T	10.0 × 0.8 × 0.6	陶磁器小片等数点出土
8 T	8.0 × 0.8 × 0.5	出土遺物なし
9 T	12.0 × 0.8 × 0.5	出土遺物なし



- 1 10YR3/2 黒褐色土 (粘質, 耕作土)
- 2 10YR5/6 黄褐色土 (やや粘質, 床土)
- 3 10YR6/3 にぶい黄橙色土 (砂質, 5～10cm 大の礫を多く含む)
- 4 7.5YR4/3 褐色土 (やや粘質, 耕作土 (旧), 2～3mm 大の炭化粒を含む)
- 5 10YR5/4 にぶい黄褐色土 (やや砂質, 床土 (旧))
- 6 10YR7/4 にぶい黄橙色土 (砂質, 3より粗い, 10～20cm 大の礫を多く含む)
- 7 2.5Y4/2 暗灰黄色土 (シルト質 (泥砂), 湿っている)
- 8 10YR7/4 にぶい黄橙色土 (砂質, 30cm 大以上の自然石を多く含む)
- 9 2.5Y6/3 にぶい黄色土 (砂質, 川砂, 水分多く含む)
- 10 10YR4/1 褐灰色シルトと 2.5Y7/2 灰黄色砂の互層
- 11 10YR7/2 にぶい黄橙色砂 (湿った川砂, 上層に 10～20cm 大の, 下層に 5cm 大以上の礫を多く含む)
- 12 2.5Y6/4 にぶい黄色土 (やや砂質, 整地土)
- 13 2.5Y7/2 灰黄色土 (砂質, 整地土, キメが細かく均一)
- 14 2.5Y7/3 浅黄色土 (砂質, キメが粗い, 川砂, 5～10cm 大の礫を含む)
- 15 10YR5/6 黄褐色土 (やや粘質, 10～30cm 大の礫を含む)
- 16 10YR6/4 にぶい黄橙色土 (やや砂質, 川砂, 湧水あり)
- 17 2.5Y6/2 灰黄色土 (やや粘質, 床土)
- 18 2.5Y6/1 黄灰色土 (砂質, 10～20cm 大の礫を含む)
- 19 10YR6/6 明黄褐色土 (砂質, 5～10cm 大の礫と 2～3mm の黄白色砂粒を多く含む)

第12図 一般県道瀬野呉線道路改良事業試掘坑土層断面図 (1:40)



a 調査地点近景



b 1 T



c 1 T



d 2 T



e 2 T



f 3 T



g 3 T



h 3 T

(西から)



a 4 T



b 4 T



c 4 T



d 5 T



e 5 T (西から)



f 6 T (南から)



g 6 T (西から)



h 6 T 遺物出土状況



a 7 T (西から)



b 7 T (南から)



c 8 T (西から)



d 9 T (西から)



e 6 T 拡張部耕作土直下出土遺物



f 6 T 北半耕作土直下出土遺物



g 6 T 北半耕作土直下出土遺物



h 7 T 耕作土直下出土遺物

4 一般県道弁財天加計線道路改良事業に係る試掘調査

所在地：山県郡安芸太田町大字土居

調査目的：一般県道弁財天加計線道路改良事業に係る埋蔵文化財の有無及び範囲の確認

開発事業者：広島県西部建設事務所安芸太田支所

調査年月日：平成27年11月16日～平成27年11月20日（11月17日を除く）

調査対象面積：4,000㎡

調査結果：埋蔵文化財包蔵地は確認できなかった。

調査概要：

今回調査した試掘地点は、平成26年度の試掘調査地点の隣接地にあたる。試掘地点の地形は、北側に位置する標高497mの山頂から南方へ派生する尾根筋が山裾に下る緩斜面であり、現況は、梅林や旧耕地、雑種地となっている。

平成26年度の試掘調査では、16箇所試掘坑（1T～16T）を発掘し、12Tの堆積土から弥生～古墳時代の土器小片数点が出土している。また、16Tからも弥生時代以前と考えられる厚手の土器片（体部小片・磨滅）が地表面付近の腐植土中から少量出土した。なお、平成26年度に掘削を行った7Tと8Tに挟まれた範囲については、両試掘坑に遺構・遺物が存在せず、地形的にも山裾から現道を挟んで水田部に下る急傾斜地が連続する地点であることから、埋蔵文化財包蔵地は存在しないと判断した。



第13図 一般県道弁財天加計線道路改良事業に係る試掘調査地点位置図（1：25,000）
（国土交通省国土地理院発行1：25,000地形図「戸河内」を使用）

平成27年度の試掘地点は、土居1号遺跡（弥生時代・包含地）の近接地であり、中世創建の記録のある実際寺の裏山にも当たることから、集落遺跡・墓域等の存在を想定して調査を行った。

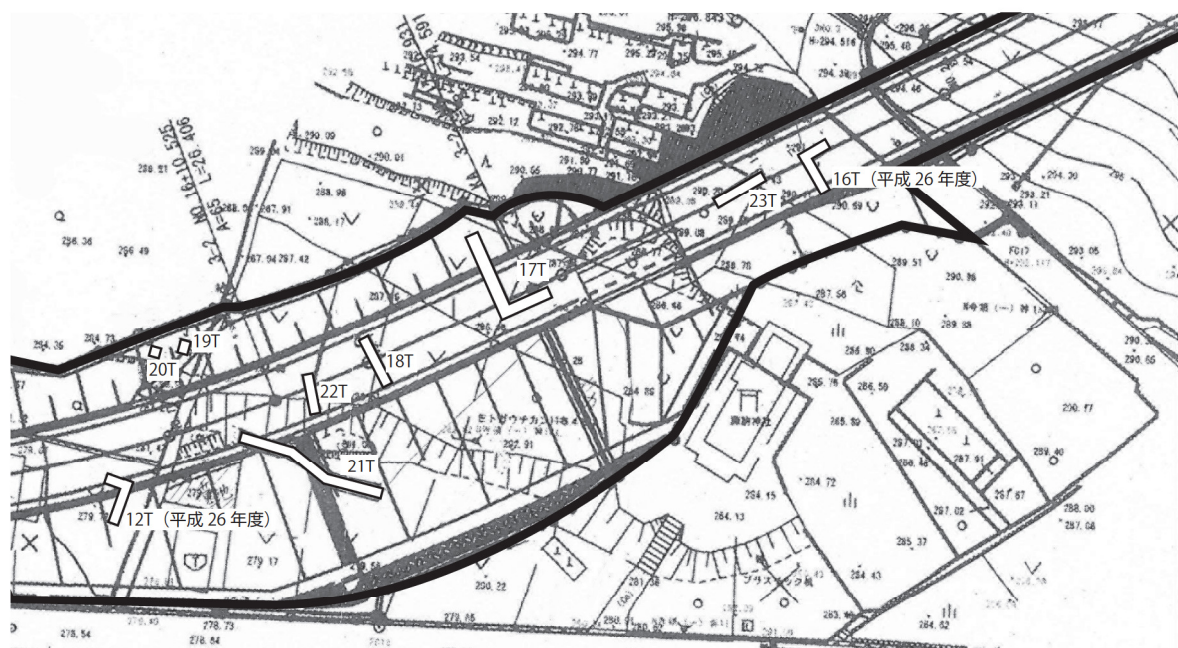
試掘坑は7箇所（17T～23T）を設定し発掘を行った。土層の基本層序は、0層＝耕作土または腐植土、Ⅰ層＝整地（盛土）層、Ⅱ層＝自然堆積層、Ⅲ層＝基盤層（花崗岩風化土）である。

17T・18T・22Tは、標高285m～287mの旧耕地上段にあたる。耕作地北側は高さ約2mの石垣で留められており、旧地形は削平を受けている。17T・18Tの土層の堆積状況は、耕作土（0層）直下にしまりのない砂質の整地層（Ⅰ層）、その下層は、平らに削られた地山（Ⅲ層）が露出した。斜面は緩やかで集落遺跡の立地が想定されたが、耕作地開墾時等に受けた削平の程度は予想以上に大きく、中世以前に遡る遺構・遺物は確認できなかった。

22Tは、17T・18Tよりやや南側の緩斜面肩部に位置する。土層の堆積状況は、耕作土・腐植土（0層）の直下に平らに削られた地山（Ⅲ層）が存在する。22Tの東端から1～2.5mの地点で、一辺1.5m程度の方形に近いプランの落ち込みを確認した。落ち込みの埋土は、にぶい黄橙色の砂質土で遺物等は含まず、落ち込みの時期・性格は不明である。断面を確認すると、落ち込みの深さは0.1m未満で、上部は開墾時に削平を受けたと考えられる。

19T・20Tは、平成26年度に堆積土中から遺物を確認した地点の斜面上方（標高284m）に当たる。耕作土・腐植土（0層）の下層に、平らに削られた地山（Ⅲ層）を確認した。Ⅲ層までの深度は約0.4mであるが、深度0.1mの地表面付近の耕作土（0層）から中世～近世の土器・陶器小片を数点確認したが、0.1mより下層からの出土遺物はない。

21Tは、旧耕作地下段に設定した。基盤層までの深度が2m以上になり堆積土も厚いので、基盤層を追って上段方向の試掘坑を延長したところ、深度が深い地点が南北方向の谷部にあたるこ



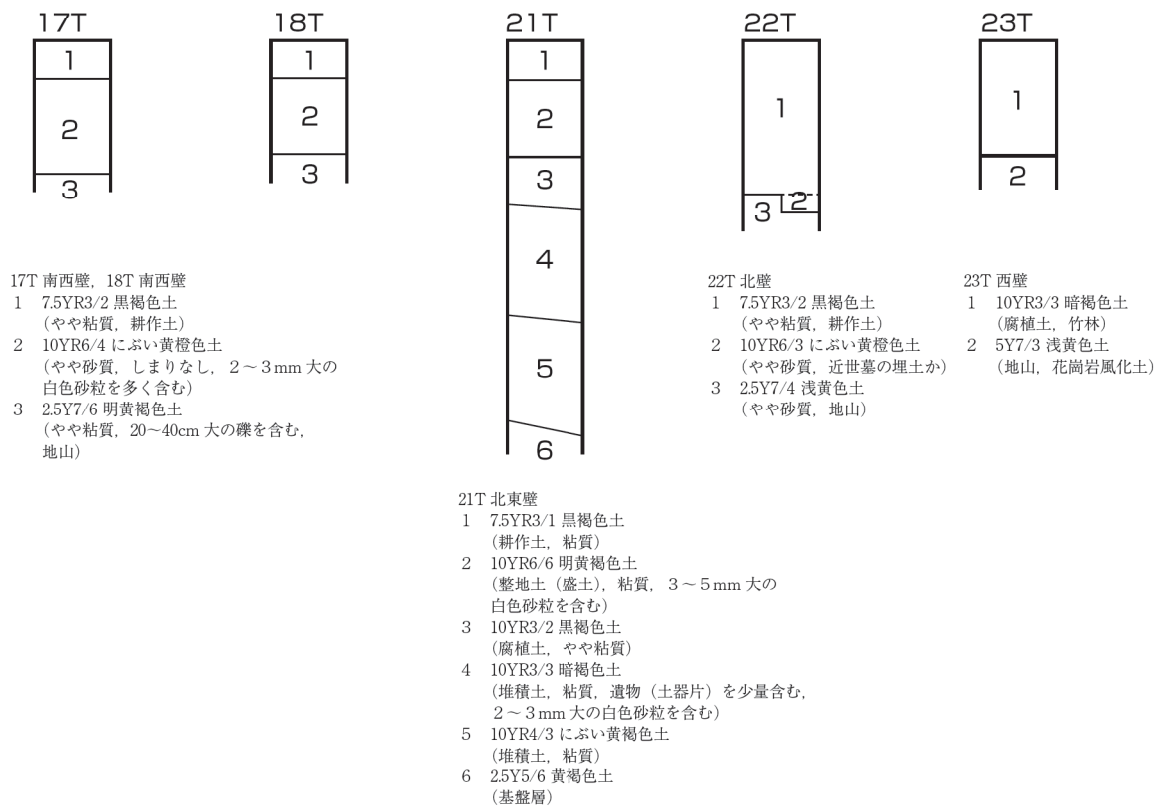
第14図 一般県道弁財天加計線道路改良事業試掘坑位置図（1：1,500）

とが判った。21 T 北東壁の堆積土（現地表面から深度約1.2mの粘質暗褐色土中）から弥生時代以前と考えられる土器体部破片を数点確認した。磨滅は少なかったなので周囲を精査したが，出土層位が厚さ約0.6mの略図4層の中央付近で，土層の堆積状況が谷筋に傾斜しながら落ち込んでいることから，遺物は斜面上方からの堆積土に包含されていたものと考えられる。

23 T は，平成26年度に腐植土中から弥生以前の厚手の土器小片が出土した地点（16 T）の南側に設定した。前年度の経緯もあり，腐植土中や竹根に絡んだ腐植土にも注意を払ったが土器片等は発見できなかった。地山面に人為的な改変はなく遺構も存在しない。前年度確認した遺物は，斜面上方からの流土に混入していたものと考えられ，遺構に伴うものではない。

表8 一般県道弁財天加計線道路改良事業試掘坑所見

トレンチ No.	長さ×幅×最大深度（m）	調 査 結 果
17 T	12.0 × 1.4 × 0.8	出土遺物なし
18 T	6.0 × 1.2 × 0.7	出土遺物なし
19 T	1.0 × 0.6 × 0.4	表土付近の腐植土中に土器小片
20 T	0.8 × 0.6 × 0.3	表土付近の腐植土中に土器小片
21 T	13.0 × 1.0 ～ 2.0 × 2.2	堆積土中に弥生以前の土器片数点
22 T	5.0 × 1.3 × 1.0	出土遺物なし，時期不明の方形落ち込み
23 T	6.0 × 0.8 × 0.8	出土遺物なし



第15図 一般県道弁財天加計線道路改良事業試掘坑土層断面図 (1:40)



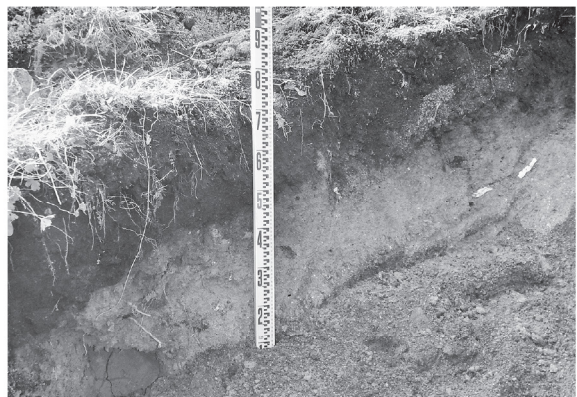
a 17T (西から)



b 17T (北東から)



c 18T (北西から)



d 18T (東から)



e 20T (南西から)



f 20T (北から)



g 21T (北東から)



h 21T



a 22T



b 22T 方形プラン検出状況



c 23T



d 23T (南から)



e 15T 延長部



f 15T



f 5 T 出土遺物



f 6 T 出土遺物

5 林道比和・新庄線（君田・布野区間）に係る試掘調査

所在地：三次市君田町

調査目的：林道比和・新庄線（君田・布野区間）に係る埋蔵文化財の有無等確認

開発事業者：三次市産業部農政課

調査年月日：平成27年6月1日～平成27年6月3日

調査対象面積：151㎡

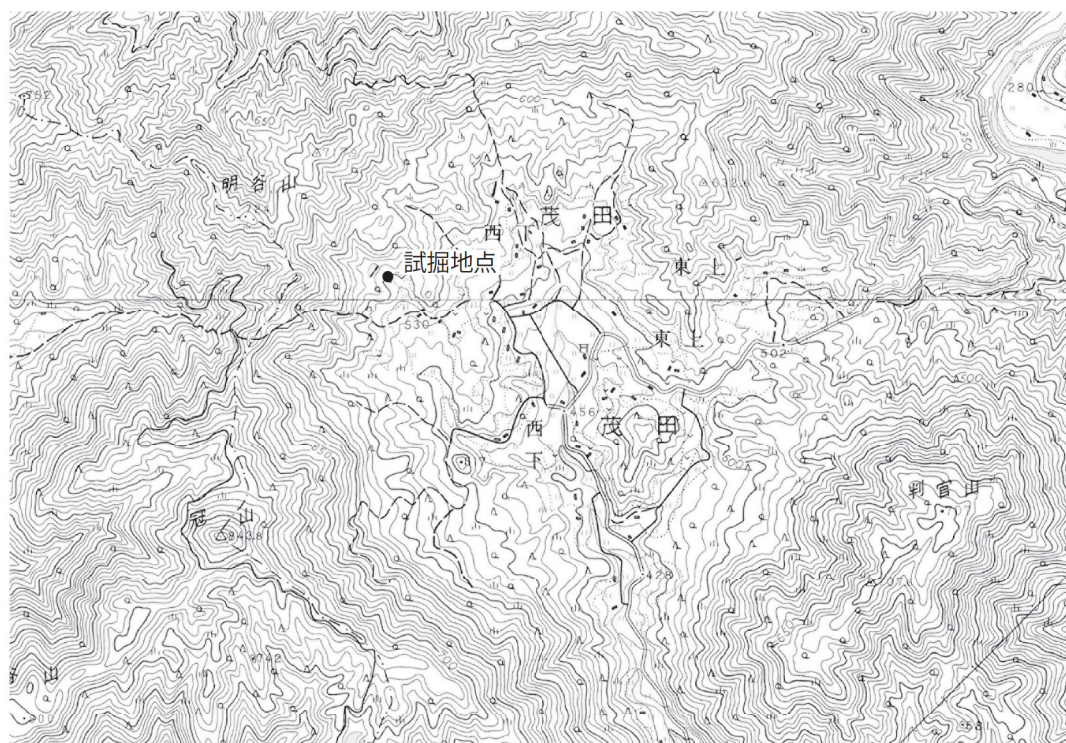
調査結果：埋蔵文化財包蔵地「奥山製鉄遺跡」（中世，製鉄遺跡，151㎡）を確認した。

調査概要：

調査範囲の北西100mに作られたため池から東流する水路の壁面に整地層と堆積した鉄滓等が確認されたことから，平成27年4月30日の現地踏査により奥山製鉄遺跡を確認した。試掘調査は，遺跡の規模を確認することを目的として実施した。

調査の結果，水路上流側（西側）で，①製鉄炉構築前の整地層と層状に堆積した鉄滓，やや間を空けた下流側（東側）の緩斜面で，②厚さ1m以上の排滓集積地を確認した。

①は，2Tの西側約1mから東側約4mの範囲で崖面に露出していた部分を精査した。2Tによって奥行きを確認を試みたが，人力での深掘りには限界があり，地表面からの深度1.2～1.6mに堆積する整地層まで掘ることは不可能であった。ただし，2Tは崖面から4m程度の地点までが平場で，そこから南は斜面となることから，下部構造の範囲も崖面からも5mを超えない範囲

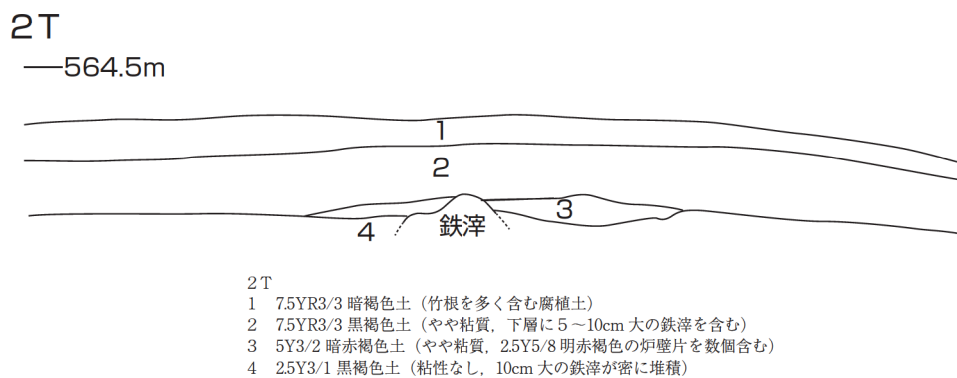


第16図 林道比和・新庄線（君田・布野区間）に係る試掘調査地点位置図（1：25,000）
（国土交通省国土地理院発行1：25,000地形図「櫃田・上布野」を使用）

は、1 Tは東側から崖面に沿って約2 m、さらにL字状に約2 m延びる。1 T付近では一辺30cm大の鉄滓が多く、緩やかに傾斜する東側に向かうに連れて、排滓層は薄くなり、大きさも一辺10cm大以下のものが大半を占める。排滓分布の東端は、地形が急傾斜となる手前約1 mの地点まで及ぶ。排滓堆積範囲の崖面からの奥行については、1 Tの南端（崖面から約4 mの地点）までは密な状態が続く。最底面までの掘削は不可能であったが、厚さは西側で1 m以上、東端、南端でも数十cmになるものと想定される。

This topographic map depicts a hill with two towers, labeled 1T and 2T, situated on a plateau. The map features contour lines with elevations ranging from 544.66 to 556.88. A dashed line, possibly representing a path or a boundary, runs across the map. A shaded area is visible near the towers. The map also includes various spot elevations and a benchmark labeled 'B. 43 H=556.03'.

– 38 –



第18図 林道比和・新庄線（君田・布野区間）試掘坑土層断面図（1：40）



a 崖面近景 (北東から)



b 崖面断面 (北から)



c 作業風景



d 1T (北東から)



e 1T東側鉄滓層 (東から)



f 1T東側鉄滓層 (南東から)



g 1T (南から)



a 2T 南から



b 2T 北から



c 炉壁出土状況



d 調査区近景 西から



e 作業風景 東から

報 告 書 抄 録

ふ り が な	へいせいにじゅうななねんどひろしまけんないせきはくつちょうさ（しょうさいぶんぶちょうさ）ほうこくしょ							
書 名	平成27年度広島県内遺跡発掘調査（詳細分布調査）報告書							
編 著 者 名	平川孝志, 西村直城, 沖憲明, 山岡貴宏							
編 集 機 関	広島県教育委員会事務局管理部文化財課							
所 在 地	〒730－8514 広島県広島市中区基町 9 番42号 TEL082－513－5023							
発行年月日	西暦2018年 3 月31日							
ふ り が な 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	遺跡面積 (㎡)	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
かめ い じょうあと 亀居 城 跡	ひろしまけんおわたけ し お がた 広島県大竹市小方 にちょうめ 二丁目	34211	11	34° 14' 20"	132° 13' 03"	20150324 ～ 20151006	420	試掘調査
おくやませいでつ い せき 奥山製鉄遺跡	ひろしまけん み よし し き み た 広島県三次市君田 ちようも だ 町茂田	34209	34581-79	34° 55' 16"	132° 48' 15"	20150601 ～ 20150603	151	試掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代			主な遺構		主な遺物	特記事項
亀居城跡	城跡	近世			郭・切岸		陶磁器類	
奥山製鉄遺跡	製鉄遺跡	中世			整地面		鉄滓・炉壁	
要 約	大規模開発事業等に先立ち，平成27年度に実施した埋蔵文化財の分布調査及び試掘・確認調査の成果を収録した。 44件の現地踏査等及び10事業14地点の試掘調査を実施した結果， 2箇所の埋蔵文化財包蔵地を確認した。							